

取材後、お子さんに次のような症状はありませんか？

- # おびえた様子であったり、しずんだ表情をしている。
- # テレビや新聞を見なくなり、自分から遠ざけようとしている。
- # 逆に自分の出た放映や記事のことを過剰に気にして、一喜一憂する。
- # ぼーっとして虚ろ。上の空で人の話も聞いていない感じがする。
- # そわそわして落ち着きがなくなり、少しの刺激でも過敏に強く反応する。
- # 些細なことでいらいらして、ときに暴れたりする。
- # いろいろな身体症状の訴えが多くなった。
- # それまでよく言うことを聞いていた子が、甘えが強くなり、ぐずってわがままを言う。逆に、気の強かった子が急に素直になってしまった。
- # ふさぎこんで友達と遊ばなくなり、大人にも疑り深くなり、甘えなくなった。

こうした症状があるときには、災害で被災したあと、それに関する報道取材を受けたことによって、こころに二次的なダメージが生じている可能性があります！

自分が取材を受け、それがマスコミに報道される様子に触れることは、子どもに強いインパクトを与えます。その体験を消化しきれず、こころが混乱している状態です。

その対応の基本は「免責・平穏・安心感」です。

★こういう場合には、お子さんに次のように接してください。

- ◎ 取材を許可したのは保護者である自分たちであり、報道の結果は自分たちが責任を持つと、しっかり伝えましょう。
- ◎ マスコミ報道はとても役に立ち、良かったのだと保証しましょう。
- ◎ 「テレビ見たよ、すごいね」「記事読んだよ。カッコいい」などと周囲が騒ぐのをやめるよう配慮してもらいましょう。
- ◎ 自分の出た放映や記事を過剰に気にする時には、テレビや新聞から遠ざけましょう。
- ◎ できるだけお子さんを一人にせず、一緒にいてあげましょう。
- ◎ 痛みなど、身体の症状をしっかりきき、さすってあげる等の手当てをしましょう。
- ◎ 夜、ぐっすり眠れているか気をつけましょう。眠れない時は医師に相談しましょう。
- ◎ 取材が行われた前と変わらず、普段どおりの接し方をこころがけましょう。
- ◎ お子さんが大人を信じられなくなり、怖がったり、疑いの目で見たりする気持ちを理解し、叱らないようにしてあげましょう。
- ◎ お子さんが安心を取り戻すため、少々羽目をはずして騒いだり、遊んだりできるよう周囲のみなさんの協力も得て、配慮してあげましょう。

■このリーフレットは、日本小児精神医学研究会より地震の際に配付されたものです。

お問い合わせ先：

(HP アドレス http://homepage2.nifty.com/jspp/jspp_website/JSPP_zai_hai_yong_gong_youfairu.html)